地図・人文書・歴史書ご担当様

2024年4月下旬刊行予定 新刊

1622年5月，若きスルタン，イェニチェリの反乱により死す——
変容する政治・経済・社会のもと，オスマン帝国はいかにして 歴史の第二ラウンドを迎えたのか?

衰退史観を乗り越え,「第二帝国」始動のメカニズムを鮮やかに論じた問題作

第二のオスマン帝国
近世政治進化論

バーキー・テズジャン〈著〉　前田 弘毅　佐々木 紳〈訳〉
（カリフォルニア大学デイヴィス校 教授）　（東京都立大学 教授）（成蹊大学 教授）

本書は、オスマン帝国史研究の新視点を切り開いた、トルコの気鋭の歴史家バーキー・テズジャン（Baki Tezcan）による *The Second Ottoman Empire: Political and Social Transformation in the Early Modern World*（ケンブリッジ大学出版、2010年）の翻訳である。

アジア・アフリカ・ヨーロッパの三大陸を支配したオスマン帝国——、その存在は周知のことだろう。しかしながら、本書に冠された「第二の（Second）」とは一体何をさすのだろうか？　16世紀後半～17世紀前半、オスマン帝国は国制の大変革を経て、「第二帝国」（Second Empire）とも呼びうる姿へ変貌を遂げた。従来のオスマン史では、16世紀のスレイマン1世の時代が「黄金期」であり、その後は長期的な衰退の道を辿った…とされてきた。しかし、こうした衰退史観に対して、本書は丹念に史料を読み込み、とくに1622年のオスマン2世（位1618～22）の廃位と弑逆に注目しながら、帝国の変容過程を詳細に論じていく。

帝国史上、始祖オスマンの名前をはじめて継承した「第二のオスマン」、すなわちオスマン2世は、イェニチェリ軍団の反乱により若くして命を落とした。その背景には何があったのだろうか？　近世オスマン帝国の政治進化の姿——「市民」化するイェニチェリ、市場経済の発展とウラマーによる制限君主制の試み、民主化の胎動——、こうした社会経済的背景や政治的要因を、同時代の世界の動きにも目を配りつつ解き明かしていく。

序　論　近世オスマン政治史
第一章　単一市場，単一通貨，単一の法
——市場社会と万民法の形成
第二章　王位継承問題
——法的監督のもとにおかれた王家
第三章　宮廷の逆襲
——オスマン帝国における絶対主義の形成
第四章　二人目のオスマンによる新帝国建設
——オスマン2世の時代（1618～22年）
第五章　絶対王政の転覆
——弑逆
第六章　顕現する第二帝国
——イェニチェリの時代
結　論　オスマン帝国の衰退と近世

A5判　並製　400頁
ISBN:978-4-634-67256-7 C3022
定価 8,800円（本体8,000円＋税）

新刊受注〆切
4／10（水）

ご注文数
冊

番線印
（ご担当名：　　）

※新刊配本に間に合いますよう、お早めのご注文をお願いいたします。

山川出版社　TEL：03-3293-8131
※ご注文は、右記までFAXをお願い致します　FAX：03-3292-6469